

## ◇2018年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)＜抜粋＞◇

この調査は2018(平成30)年度に実施された中学校の修学旅行に関するものである。全国の国立、公立、私立10,270校から2,982校を抽出してアンケート調査を依頼した。回答は960校(回答率32.2%、前回32.9%)からいただいた。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	71	9,421	778	10,270
抽出校数	71	2,162	749	2,982
回答校数	16	787	157	960
回答率%	22.5	36.4	21	32.2

※回答率は、抽出校に対する回答校数の割合

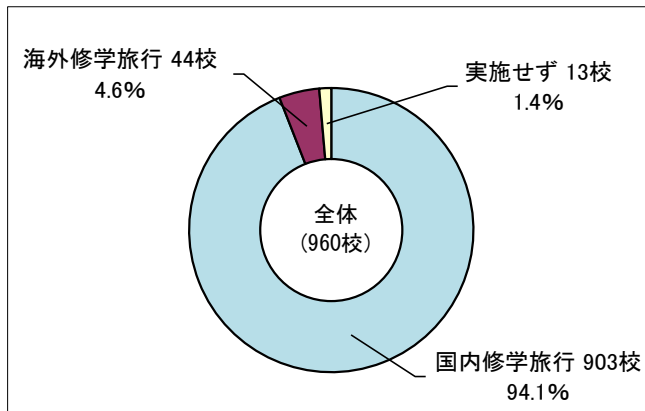
調査項目は次の通りである。

(1)実施状況 (2)不参加生徒の有無・理由 (3)実施時期 (4)実施学年 (5)保健指導のための引率者(6)旅行日数 (7)旅行費用 (8)主な交通手段 (9)旅行内容「重点をおいた活動、旅行先、宿泊地・利用宿泊施設、見学先等」(10)班別自主行動 (11)体験学習 (12)防災((避難)訓練の取り組み(13)アレルギー対策 (14)事前・事後学習の取り組み

ここではその一部を抜粋して紹介する。

なお詳細については「教育旅行年報データブック2019」をご覧ください。

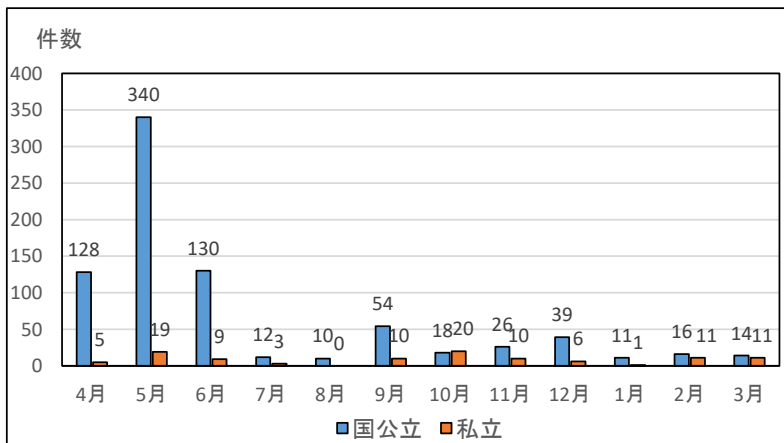
### 1 修学旅行の実施状況



国内修学旅行の実施校の全体の割合は、前回調査 93.0%から 94.1%と 1.1ポイント上がった。

海外修学旅行も含めた実施率は 98.7%で、前回97.4%より若干上がった。海外修学旅行実施率は、国公立の 0.2%に対して、私立は 26.8%(前回調査23.7%)で、私立が国公立に比べてかなり高い。また全体では、海外修学旅行の実施校の割合が 4.6%で前回調査の 4.4%より増えている。私立の海外の実施の割合が 2.9ポイント増えたことが要因となっている。

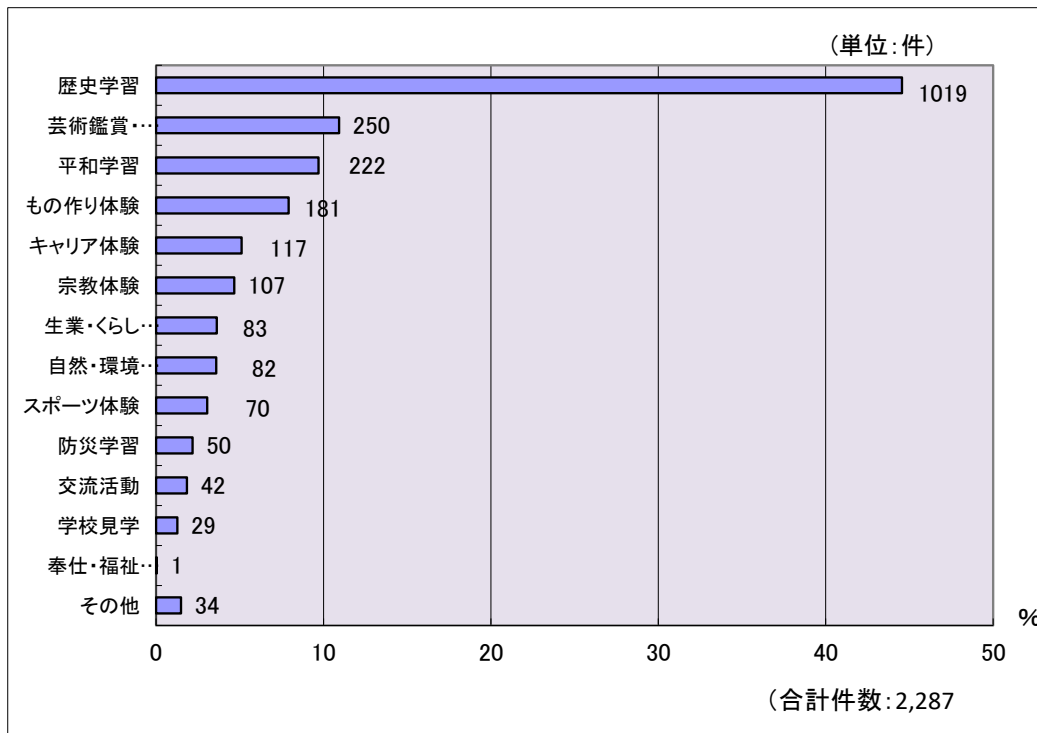
### 2 国内修学旅行実施時期



国公立は、4・5・6月実施が75.0%(前回73.2%)で前回より1.8ポイント上がった。7・8月実施が2.8%(前回4.9%)で前回より2.1ポイント下がった。また、3学期に実施している公立37校中、2年生で実施しているのは36校である。私立は、9月から11月にかけて実施が全体の38.1%(前回45.5%)と多い。

### 3 旅行内容

重点を置いた活動の分類別件数・比



修学旅行で重点を置いた学習や体験を分類した分類別件数比率を見ると、「歴史学習」が1019件（44.6%）で最も多く、次いで「芸術鑑賞・体験」が250件（10.9%）、「平和学習」が222件（9.7%）で、この3分類内容で全体の65.2%を占めている。その他様々な体験についても重点を置いて実施していることが分かる。

また、重点を置いた学習や体験の具体的な活動内容を調査した結果、1位「遺跡・史跡・文化財・寺社等の見学」2位「平和学習」3位「伝統的町並みや建造物群保存地区の見学」4位「伝統工芸ものづくり体験」であり、この順位は例年ほぼ同じである。その他活動内容は多岐にわたっており、各学校が実態に応じて様々に重点を置いた活動を実施していることがうかがわれる。

さらに、活動内容の変化を2014年からの5年間で見ると、「料理・食品加工体験」「スキー・スノーボード・スケート等」が順位を下げ、「いなか暮らし体験」「国際交流（外国人、留学生との交流）」が順位を上げている。

#### 4 都道府県別旅行先上位20

順位	旅行先	件数	構成比%
1 (1)	京都	450	23.1
2 (2)	奈良	381	19.6
3 (3)	東京	206	10.6
4 (5)	大阪	179	9.2
5 (4)	千葉	175	9.0
6 (6)	沖縄	90	4.6
7 (8)	広島	60	3.1
8 (9)	長崎	53	2.7
9 (7)	神奈川	51	2.6
10 (11)	兵庫	41	2.1
11 (10)	福岡	37	1.9
12 (12)	北海道	27	1.4
13 (18)	長野	20	1.0
14 (15)	岩手	17	0.9
15 (13)	熊本	17	0.9
16 (17)	佐賀	16	0.8
17 (16)	鹿児島	14	0.7
18 (22)	静岡	12	0.6
19 (14)	滋賀	10	0.5
20 (21)	山梨	9	0.5

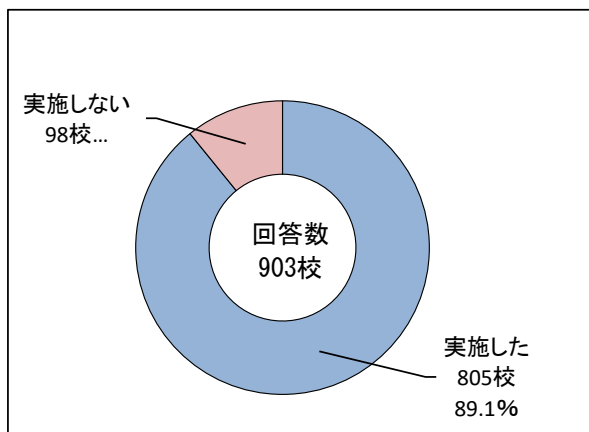
( )順位は前回の順位  
 ※総件数は1,865件

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

今回調査で上位については大きな変動は見られない。3位までは前回調査と同じ順位になった。大きな変動として、広島県が前々回10位から前回8位、今回7位、静岡が前回22位から今回18位に上がったことがあげられる。

また、震災の影響があった熊本は前回13位から今回15位とやや下がったが、岩手が前回15位から今回14位と健闘した。

#### 5 班別自主行動実施率

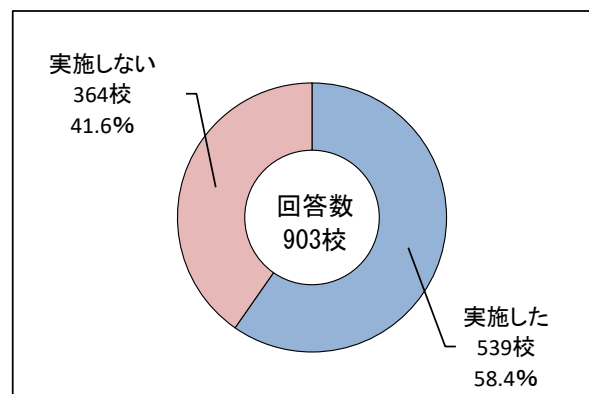


班別行動実施率は、今回も80%を超え、全体で89.1%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2015(平成27)年度は87.1%、2016(平成28)年度86.9%、前回2017(平成29)年度が87.4%であった。

「主体的・対話的で深い学び」が求められる新学習指導要領のもと、今後も多くの学校が班別自主行動を取り入れていくと考えられ、的確な目標設定がますます重要となるだろう。

#### 6 体験学習実施率



体験学習実施率は、全体で58.4%（前回58.4%）と同じであった。体験学習実施率が一昨年から60%を切っている。理由には、体験学習に費やすことのできる費用が少なくなっていることがあると思われる。

「主体的・対話的で深い学び」を構築するには、今後修学旅行においても、今まで以上に班別自主活動や体験学習の充実を図ることが必要であろう。